

【 復活讃詞 第6調 】



てんしのぐんなんぢのはかにあらわれしに、  
天使軍爾墓現。

ばんぺいしせしもののごとし、マリヤはか  
番兵死 者 如 墓

にたちて、なんぢのいさぎよきからだをたづね  
立 爾 潔 體 尋

たあり。なんぢはぢごくにいざなわれず  
爾 地獄 誘

して、ぢごくをとりにし、いのちをた賜  
地獄 虜 生命 賜

もうものとして、しよぢよにあいたまえり。  
者 處女 逢 給

しよりふくかつせししゅよ、こうえいは  
死 復 活 主 光 榮

なんぢにきいす。  
爾 歸

【 日本の亜使徒ニコライの讃詞 第4調 】



こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも  
光 榮 父 子 聖 神 歸 今

いつもよよに、アミン。  
何 時 世 世

し と と ひ と し く ど う ざ な る も の ち ゆ う  
使 徒 等 同 座 者 忠

じ つ に し て し ん ち な る ハ リ ス ト ス の え き し ゃ 、 せ い  
實 神 智 役 者 聖

な る し ん に え ら ば れ た る ふ え 、 ハ リ ス ト ス の あ い  
神 撰 笛 愛

に み ち た る う つ わ 、 わ が く に の こ う  
満 器 我 國 光

し ょ お し ゃ 、 あ し と し ゆ き よ う せ い ニ コ ラ イ  
照 者 亞 使 徒 主 教 聖

よ 、 な ん ぢ の ぼ く ぐ ん の た あ め 、 お よ び  
爾 羊 群 爲 及

ぜん せ か い の た め に 、 い の ち を た も う せ い  
全 世 界 爲 生 命 賜 聖

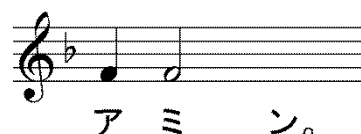
さん しゃ に い の り た ま え 。  
三 者 祈 給

司祭) ( 黙誦: 聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、  
 ヘルヴィムより讚榮せられ、悉くの天軍より伏拝せられ、萬物を無より有と  
 なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、  
 願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行つる者を棄てずして、其救の爲に痛悔  
 を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な  
 る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讚榮を奉るに堪うる者と

<sup>しゅさい なんぢみづか われらざいにん くち せいさん うた う なんぢ じんじ</sup>  
 なしし主宰よ、爾 親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を  
<sup>もつ われら のぞ われら およ じゆう じゆう つみ ゆる わ たましい からだ</sup>  
 以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が 靈と體と  
<sup>せい われら しょうがいぜんこう もつ なんぢ つと え たま せい</sup>  
 を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる  
<sup>しょうしんぢよ こせい なんぢ よろこび な しょせいじん きとう よ</sup>  
 生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 )

<sup>けだしわ かみ なんぢ せい われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ</sup>  
 司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世

に、



【 聖三祝文 】

<sup>せい なる かみ、 せい なる ゆう き、 せい なる</sup>  
 聖 神 聖 勇 毅 聖  
<sup>じょう せい の もの よ、 われら を あわれ め</sup>  
 常 生 者 我 等 憐  
 よ 。 <sup>せい なる かみ、 せい なる ゆう き、 せい</sup>  
 聖 神 聖 勇 毅 聖  
<sup>なる じょう せい の もの よ、 われら を あわれ</sup>  
 常 生 者 我 等 憐  
<sup>め よ 。 せい なる かみ、 せい なる ゆう き、</sup>  
 聖 神 聖 勇 毅  
<sup>せい なる じょう せい の もの よ、 われら を あわ</sup>  
 聖 常 生 者 我 等 憐  
<sup>れ め よ 。 こう えい は ちち と こ と せい しん</sup>  
 光 榮 父 子 聖 神

に き す、 い ま も い つ も よ よ に、 ア ミ ン。  
歸 今 何 時 世 世

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ、 わ れ ら を あ わ  
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ。 せ い な る か み、 せ い な る ゆ う  
聖 神 聖 勇

き、 せ い な る じ ょ う せ い の も の よ、 わ れ ら を  
殺 聖 常 生 者 我 等

あ わ れ め よ。  
憐

司祭) ( 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國  
しゅ な よ き もの あが ほ ざ もの なんぢ そのくに  
 の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、 )

【 提綱 (プロキメン) 主日第6調 】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

なんぢのしんにも。  
爾 神

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主よ、爾の民を救い、爾の業に福を降し給え、

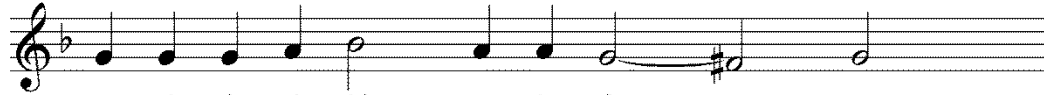
しゅよ、なんぢのたみをすくい、なんぢのぎょうに  
主 爾 民 救 爾 業

ふくをくだしたまあえ。  
福 降 給

誦經) <sup>しゅ われなんぢ よ われ かため わ ため もだ なか</sup> 主よ、我爾に呼ぶ、私の防固よ、我が爲に黙す母れ、



しゅよ、なんぢのたみをすくい、なんぢのぎょうに  
主 爾 民 救 爾 業



ふくをくだしたまあえ。  
福 降 給

誦經) <sup>しゅ なんぢ たみ すく</sup> 主よ、爾の民を救い、



なんぢのぎょうにふくをくだしたまあえ。  
爾 業 福 降 給

【 使徒經 (アポストロス) 220 端 エフェス書2章4節~10節 】

司祭) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>せいしと じん たつ しょ よみ</sup> 聖使徒パウエルがエフェス人に達する書の讀、

司祭) <sup>つつし き</sup> 謹みて聽くべし、

誦經) <sup>けいてい あわれみ と かみ そのわれら あい おおい あい よ われらつみ よ し</sup> 兄弟よ、矜恤に富める神は、其我等を愛する大なる愛に縁りて、我等罪に由りて死

<sup>もの</sup> せし者をハリストスと偕に生かせり、<sup>とも い なんぢらおんちよう もつ すく</sup> 爾等恩寵を以て救われたり、<sup>かれ とも ふくかつ</sup> 彼と偕に復活せ

しめ、ハリストス・イイススに在りて天に坐せしめたり、<sup>みらい よ おい その</sup> 未來の世に於て、其ハリストス・イ

イススに在りて我等に <sup>あ われら ほどこ じんじ もつ おんちよう あふ とみ しめ ため けだし</sup> 施しし仁慈を以て、恩寵の溢れたる富を示さん爲なり。蓋

<sup>なんぢら おんちよう もつ しん よ すく こ なんぢら よ あら かみ たまもの</sup> 爾等は恩寵を以て信に由りて救われたり、是れ爾等に由るに非ず、神の賜なり、

<sup>おこない よ あら ひと ほどこ ため けだしわれら くれ つく もの</sup> 行に由るに非ず、人の誇ることなからん爲なり。蓋我等は彼の造りし者にして、ハ

リストス・イイススに在りて善き功の爲に造られたり、<sup>すなわちかみ われら おこな ため</sup> 即神が我等の行わん爲に、

<sup>あらかじ そな ところ</sup> 預め備えし所なり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし——あなたがたの救われたのは、恵みによるのである——キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さ

ったのである。それは、キリスト・イエスにあってわたしたちに賜った慈愛による神の恵みの絶大な富を、きたるべき世々に示すためであった。あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。

\*\*\*\*\*

司祭) <sup>なんぢ</sup> 爾 <sup>へいあん</sup> に平安、

誦經) <sup>なんぢ</sup> 爾 <sup>しん</sup> の神にも、ア ril l i ya、

【 ア ril l i ya 主日第6調 】

司祭) <sup>えいち</sup> 睿智、

ア ril l i ya、  
ア ril l i ya。

誦經) <sup>しじょうしゃ</sup> 至上者の <sup>おおい</sup> 覆 <sup>した</sup> の下 <sup>お</sup> に居る者は、<sup>ぜん</sup> 全能者の <sup>うしや</sup> 蔭 <sup>かげ</sup> の下 <sup>した</sup> に安んず、<sup>やす</sup>

ア ril l i ya、  
ア ril l i ya。

誦經) <sup>しゅ</sup> 主に謂う、<sup>い</sup> 爾 <sup>なんぢ</sup> は <sup>われ</sup> 我の <sup>かくれが</sup> 避所、<sup>われ</sup> 我の <sup>ふせぎ</sup> 防禦、<sup>われ</sup> 我が <sup>たの</sup> 頼む <sup>ところ</sup> 所の <sup>われ</sup> 我の <sup>かみ</sup> 神なりと、

ア ril l i ya、  
ア ril l i ya。

司祭) ( 黙誦: 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念

の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を

畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし

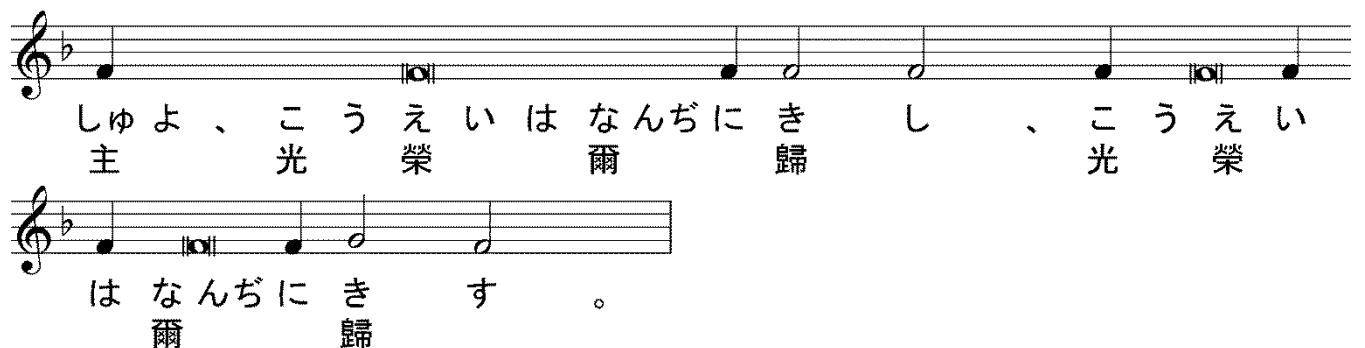
て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。 )

【 福音經 (エヴァンゲリオン) ルカ福音書 53 端 10 章 25~37 節 】

司祭) 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭) 謹みて聴くべし、彼の時一の律法師イススに就きて、彼を試みて曰えり、師よ、我

何を爲して永遠の生命を嗣がんか。彼は之に謂えり、律法に何をか録せる、爾如何に読

むか。答えて曰えり、爾心を盡し、靈を盡し、力を盡し、意を盡して、主爾

の神を愛せよ、又爾の鄰を愛すること、己の如くせよ。イスス之に謂えり、爾の

答えし所正し、之を爲せ、乃生きん。然れども彼は己を義とせんと欲して、イス

スに謂えり、我が鄰とは誰ぞや。イスス答えて曰えり、或人イエルサリムよりイェリホン

に下る時、盜賊に遇えり、彼等其衣を剥ぎ、彼に傷つけ、幾ど死するばかりにして、

